

豊稔池

香川県観音寺市の豊稔池は、柞田（くにた）川上流の唐谷川に築造された溜池で、大野原の約 500ha の農地を潤しています。大野原は水に苦勞してきた地域で、昔は田畑の隅々に野井戸が掘られ、跳ね釣瓶により地下水がくみ上げられていたため、「大野原へは娘はやるな 娘つるべの嫁になる」とまで言われました。

明治 27 年、28 年と 2 年続きの干ばつを機に、水不足を解消するため、井関池と大谷池の増築を目的として大野原村を中心に 1 町 4 か村で大関耕地整理組合が設立されましたが、地域が広く利害が対立して事態は進展しませんでした。このため、井関池よりさらに上流の田野々に新池を築造することが発議されました。大正 13 年も干ばつとなり、農民たちが組合や地主に新池築造の早期実現を訴えるのを目の当たりにして、加地茂治郎組合長は県知事や県会議員に田野々新池工事を県営用排水事業として実施するよう請願し、大正 13 年 12 月県議会で県営事業として実施されることが決まりました。

田野々新池工事は大正 15 年 4 月に県営事業として着手されましたが、工事は組合が施行し、救農土木事業として地元から人夫を調達し、技術者も組合で養成するなど地元が主体的に取り組みました。築堤材料の石は田野々地区で採掘し、砂は 10km 程離れた豊浜と観音寺の間の海岸から牛車で運び、工事は 4 年の歳月と延べ 15 万人の労力により昭和 5 年 3 月に完成しました。池の名称は「豊稔池」と命名されました。豊稔池碑の両側には鳥と稲麦が、台座には野菜と果物が彫刻され、五穀豊穰を願う人々の思いが表現されています。

豊稔池が全国的に知られているのは、我が国のコンクリートダム築造技術の草創期に、豊稔池堰堤（堰堤延長 145m、堰堤高 30m）がマルチプルアーチダム（多拱扶壁式粗石モルタル積石堰堤）という画期的な工法により建設されているからです。また、洪水吐をサイホン式構造にしたり、堰堤アーチ部にコンクリートブロックを採用するなど、随所に斬新な技術が取り入れられています。施工中最も困難であったアーチ部のブロック積み上げ作業は、高知県から招請された石工棟梁によって施工されたと言われています。

豊稔池は築造から半世紀余りを経過し、堤体の一部に漏水が生じるなどの老朽化がみられたことから、防災ため池工事として平成元年度から大規模な改修工事が行われ、平成 5 年度に竣工しました。さらに平成 5～6 年度には堰堤周辺が利活用保全施設として公園化され、四季折々訪れる人に景観を楽しませています。豊稔池堰堤は平成 18 年に重要文化財に指定されました。

<参考文献：豊稔池土地改良区・香川用水土地改良区編「豊稔池の築造」2004 年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年、新修大野原町誌編さん委員会編「新修大野原町誌」2005 年など>



豊稔池堰堤

copyright-2017 西国社会資本アーカイブス

豊稔池碑

copyright-2017 西国社会資本アーカイブス

(地理院地図に加筆)